



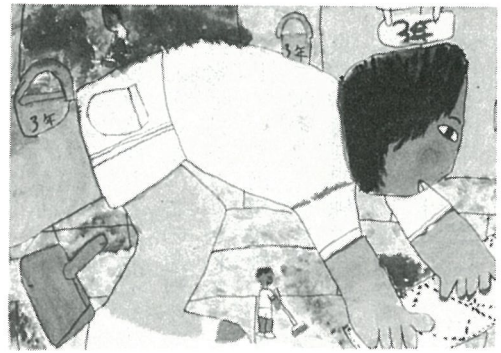
5年

伊橋 純平くん

※夜空や深い山やまの色を出すのが、むずかしかったです。



『銀河鉄道の夜』



『どうきんがけをする人』

3年

増島 実くん

※せなかをまるくして、ふいているかっこうをうまく出すのがたいへんだった。



6年

川島 理沙さん

※顔の表情を出すのがむずかしかった。



『ミシンをかける友だち』



4年

森 さゆりさん

※顔のぶふんと目がむずかしかった。服の色がきれいになってよかった。



『くつひもを結ぶ友だち』

ひかり俳壇

掌の胼胝も消えし六十路の夏はじめ

布施 和代 (二又)

休耕の無念や驕る草の丈

鈴木とし子 (宝米)

わだかまるカルテ横文字梅雨最中

鈴木 都根 (橋場)

サイダーの透明にある甘露なり

土屋 義昭 (虫生)

病む夫のありて朝の苺摘む

椎名 静子 (二又)

臥す母を看取る夕べの遠花火

土屋 好 (虫生)

もてなしは風鈴の鳴る窓開く

大木静波子 (篠本二区)

妻留守の軒に風鈴鳴りしきる

秋山 一泉 (野栄町)

風鈴の余韻静かに闇にあり

伊藤 定男 (尾垂五区)

風鈴の音色自在に風の意味

伊藤 幸枝 (尾垂六区)

凶事ありや風鈴ハタと止みし刻

椎名しげる (橋場)